

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

発行：関西学生サッカー連盟
2009年11月21日発行 第19号

JUFA Kansai

第87回関西学生サッカーリーグ
2009年11月21日(土)・22日(日) 後期10節

関西学生サッカーリーグ 後期 第10節

執念の勝利！

写真：大体大
(左：2得点で貢献・村田 和哉 選手
右：ダメ押し3点目をゲット・川西 翔太 選手)



第9節 大院大-大体大より

Photo: Jufa-kansai

第9節、伝統の関関戦を制し、関学大が首位に返り咲いた。その上位は相変わらずの混戦ぶり…。

今節、いくつかのインカレへの椅子が決まるのか！？

下位では大体大・京産大がともに意地を見せ、混戦ぶりが激化。上位・下位とも負けられない戦いが続くー。

■ 11月21日(土) @高槻市立総合スポーツセンター <第1試合> 11 : 30 Kick off 同 大-関西大

前節の惜敗でインカレ出場権がなくなった同大。MF⑦楠神順平は「このチームで試合を出来るのは、後わずか。悔いのないようにベストを尽くす」と誓った。タレント集団が上位戦線を掻き乱すか。対するは、宿敵・関学大に敗れ、痛い一敗となった関西大。3回生ながらゲームキャプテンを務めるDF②田中雄大は「前節の失点、そして敗戦は大きいけれど、どれだけ変わるか。これを乗り越えていかないといけない」と前を向いている。インカレ出場争いも激化しており、攻撃でタレントの揃う同大を無失点で抑えたい。

<第2試合> 14 : 00 Kick off 桃山大-関学大

同大同様、前節の惜敗でインカレ出場権を無くした桃山大・得点を着実に積み重ねるFW⑩齋藤達也は、個人の成績も気にしつつ「上級生と最後まで一緒に戦いたいし、気持ちよく送り出したい」と気遣いも見せた。首位・関学大に一泡吹かせにかかる意気込みは十分。一方の関学大。前期首位の桃山大と対戦する前にライバル・関西大に勝利を収めたことは非常に大きいだろう。「自分がどうなろうと体を張って、しっかり勝ちたい」とゲームキャプテンDF④志田野雄一郎。関西制覇に向け、引き分けも許さない状況でしっかり勝ちを収めた。

■ 11月21日(土) @高槻市立萩谷総合公園サッカー場 <第1試合> 11 : 30 Kick off 阪南大-大産大

完全に波に乗った阪南大。攻撃を牽引するFW⑭東浩史も「中身のある試合をして、絶対に全国に行く」と強い気持ちを表した。FW⑩木原正和の復帰も秒読み。ラストスパートは止まらない。対する大産大・楢引監督は「阪南大は好調だし、インカレに向けてモチベーションも高いだろう」と厳しい表情。強敵を打ち倒し、1部残留を決めることができるか。

<第2試合> 14 : 00 Kick off 立命大-大院大

首位・関学大と勝ち点で並び2位につける立命大。MF⑧福本尚純主将は、「結果は出たけど、全国の舞台を考えれば内容も欲しい。もっと全体を高めて全国に乗り込みたい」と強い意志を語ってくれた。好調・大院大への注意も怠っていなかった。前節・大体大に完敗を喫した大院大。藤原義三監督は「ケガ人がいる中で苦しいチーム事情もあるが、ミスが多い」と顔をしかめた。今日の相手の立命大には前期勝っており相性も良い。まずは崩壊した守備の建て直しをしっかりと図りたい。

■ 11月22日(日) @高槻市立萩谷総合公園サッカー場 <第1試合> 11 : 30 Kick off 大教大-京産大

一度は引き離れた勝ち点の差を詰められてしまった大教大。ついに最下位・京産大との直接対決を迎える。前節中盤で体を張ったMF⑩三好洋央は「私立は1点獲ったらのってくる。相手もシンプルなんで、セカンドボールの拾い合いになるはず」と警戒。勝てば自動回避への大きな勝利となる。対する京産大・古井裕之監督は、残留へ向けた大一番となる直接対決に「相手も必死だろうけど、こっちはもっと必死」と強い気持ちを見せた。両チームの真価が問われる試合となる。

<第2試合> 14 : 00 Kick off びわこ大-大体大

ここにきて3連勝と、びわこ大に勢いが出てきた。自力での残留もほぼ決定しているが、まだ予断を許さない状況には変わらない。「4回生はあとわずか。後輩に何か残せる試合にしたい」とFW③平野甲斐。対する大体大は、他チーム次第で負ければ残留の可能性が絶たれる。「もう後がない。前節の良いサッカーを継続したい」とMF⑧村田和哉。前期は引き分けしているこのカード。最後に決着を付けたい。

同志社大学 vs 阪南大学

残り試合全勝でインカレを目指す同大だが、「ケガ人が多過ぎる」(各選手)状態で、ベストメンバーが組めない。

対する阪南大は、主力が戻りつつあり調子も上向き。インカレも現実味を帯びて来た。対照的な両チームの対戦だが、試合内容は濃いものになった。

阪南大の中盤のキーマン⑥井手口正昭が「同大の形に持っていかれると苦しい。調子の良い自分たちの形に持ち込めれば」と語っていたが、序盤は同大が形を作る。MF⑧荒堀謙次が深い位置から組み立てとフィニッシュに参加し、左サイドは⑦楠神順平と左SB②林佳祐で相手陣深くまで決る。同大の定番の形を立て続けに見せる。そして得たCK。MF27東矢尚仁が蹴ったボールが、楠神に渡るがシュートはヒットせず。ただそのボールがDF③安川有の前に転がり、安川が豪快に左足で決める。26分、試合を動かしたのは同大。同大は、前半をこのまま切り抜けようとしたが、阪南大がそれを許さなかった。好調を維持する⑭東浩史と⑦井上翔太のコンビが冴える。前半終了間際に、井上がドリブルでごぼう抜き。フリーの東に渡すと、「GKに当てないように気をつけた」という東のシュートが決まり同点。これで阪南が勢い付いた。後半終了間際にも、東が「思いっきり打った」シュートを捻じ込み逆転。好調さを見せるとともに、上位戦線に踏み止まった。(文:サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

同大 1 - 2 阪南大

■11月14日(土) 11:30 kick off
@三木総合防災公園陸上競技場

◆得点(アシスト)◆
同大 26分 3 安川有
阪南大 44分 14 東浩史(7 井上翔太)
阪南大 88分 14 東浩史(28 谷本泰基)

桃山学院大学 vs 立命館大学

桃山大 1 - 2 立命大

■11月14日(土) 14:00 kick off
@三木総合防災公園陸上競技場

◆得点(アシスト)◆
桃山大 1分 11 齋藤達也(1 北井太陽)
立命大 49分 20 佐原啓泰
立命大 83分 8 福本尚純

電光石火の先制弾だった。開始1分。桃山大GK①北井太陽のフィードから、快足FW⑩齋藤達也が抜け出す。「GKの位置取りが見えたので、強いシュートではなかったけど、流し込めた」(齋藤)という冷静なゴールで桃山大がいきなり先制する。時間が早かったため、立命大には焦りはなかっただろうが、それでも攻撃は縦に急ぐものが多く、得意のサイド攻撃を見せられない。反対に、セカンドボールを拾える桃山大は、MF⑥岡田翔太郎がゲームメイク。中央、左右にボールを散らし、立命大DF陣を苦しめた。立命大にとって幸いだったのは、形にならなかった前半で失点を重ねなかった事。ハーフタイム、MF⑧福本尚純主将が「攻撃に形を修正した」事で、立命大が息を吹き返す。

後半早々、相手DFにプレッシャーをかけたFW⑩佐原啓泰がボールを奪う。しかしシュートを撃つには角度が無い。ここでの佐原の選択は僅かな角度を射抜くシュート。それが見事に決まり同点に。気分的にも落ち着いた立命大は、後半の主導権を常に握る。右サイドでは、MF⑥井上優輔が仕掛け続け、左は、SB⑤前野貴徳がオーバーラップを繰り返す。しかし、なかなか点が入らずもどかさしも出て来た83分。福本がライン裏でパスを受けてGKをかわす。DFにボールをクリアされそうになったが体ごとゴールマウスに押し込んだ。執念の逆転劇。立命大が優勝のチャンスを自分たちの力でもぎ取った。(文:サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

大阪産業大学 vs 京都産業大学

一刻も早く残留争いから抜け出したい大産大と、残留へ向けて一縷の望みを残したい京産大。シーズンも終盤に差し掛かり、双方とも絶対に落とせない戦い。

まずは大産大が優位に試合を進める。しかし、FW⑨西之宮慎司にボールを入れた後の展開が上手く機能せず、単調な攻撃に終始してしまい、得点に繋げることができない。櫛引実監督は「好調だった西原周平をインフルエンザで欠いたのが痛かった」と悔やんだ。

後半に入ると、大産大の運動量が落ち始めたこともあり、京産大がセカンドボールを拾い、効果的なカウンターを繰り返す。そして迎えた72分、MF⑩小笠原侑生の中盤シュートがクロスバーに当たり、その跳ね返りをFW41安藤俊輔が落ちていて決め、ついに先制。更に81分、MF⑦稲本悠人が右サイドから上げたクロスで小笠原が頭で合わせ、2-0。勢いに乗る京産大は、88分にも安藤が倒されて得たPKを、稲本が決めて3-0。京産大が8試合ぶりの勝利を飾り、1部残留への希望を見出した。1得点1アシストの京産大・小笠原は「今年は結果を出せてなかったので、久しぶりに得点に絡めてよかった。やっぱり勝つのは嬉しい」と喜びを爆発させた。(文:京産大アスレチック 谷口達也)

大産大 0 - 3 京産大

■11月14日(土) 11:30 kick off
@西京極総合運動公園補助競技場

◆得点(アシスト)◆
京産大 72分 41 安藤俊輔(10 小笠原侑生)
京産大 81分 10 小笠原侑生(7 稲本悠人)
京産大 88分 7 稲本悠人

びわこ成蹊スポーツ大学 vs 大阪教育大学

「この試合の重みを分かっていない」試合後、大教大・入口豊監督はこう語った。それほど、勝てば自力で残留がほぼ決まるびわこ大、第一試合に勝利した最下位の京産大に勝ち点差を詰められた大教大、両者にとって重要な試合であった。

序盤、試合の流れを掴んだのはびわこ大。胃腸炎でベンチスタートのFW⑬平野甲斐を27分に投入すると、その采配が的中。平野をターゲットに次第にボールが収まりだし、裏をつく飛び出しで大教大へ攻勢をかけた。そしてスコアレスで迎えた前半、ロスタイム。びわこ大があまり角度のない位置からFKのチャンスを得ると、キッカーは平野。地を這うシュートは味方の足元を抜け、ゴールへと突き刺さった。最高の形で後半を迎え、終始びわこ大ペースで試合が運ぶ。逆に前半終了間際のゴールは大教大には精神的ダメージが大きく、大教大らしい粘り強いサッカーが影を潜めていた。後半もびわこ大はMF⑮浅津知大がサイドで起点になるなど交代選手でリズムを掴み、追加点は奪えなかったものの3連勝。リーグ前半戦は苦戦を強いられていたびわこ大が波に乗ってきた。一方、大教大はまたしても降格争いに踏みとどまる結果となった。残り2節、勝つしかない。(文：フリーライター 久住 真穂)

びわこ大 大教大
1 - 0

■11月14日(土) 14:00 kick off
@ 西京極総合運動公園補助競技場

◆得点(アシスト)◆
びわこ大 44分 13 平野 甲斐

大阪学院大学 vs 大阪体育大学

大院大 大体大
1 - 3

■11月15日(日) 11:30 kick off
@ 三木総合防災公園陸上競技場

◀◆得点(アシスト)◆

大体大 27分 8 村田 和哉 (2 前田 涼太郎)
大体大 34分 8 村田 和哉 (10 川西 翔太)
大体大 59分 10 川西 翔太 (5 藤春 廣輝)
大院大 87分 9 岡村 和哉 (5 尾泉 大樹)

前節、首位関学大に勝利するなど後期台風の目となっている大院大。負ければ自力での残留が厳しくなり、プレッシャーが掛かる大体大との一戦。

この日の主役は大体大・MF⑧村田和哉。「もう後がない。この試合に全力を注ぐ」とキレのあるドリブルで相手を翻弄する。得意のサイドでマークがつくと、FW⑩川西翔太とポジションを交代し前線でプレー。そして27分、待ちわびた先制点はDF②前田涼太郎のドリブルから中央で待ち構えていた村田のシュート。ここ2試合無得点の大体大はこのゴールで勢いづく、2点目もまたしても村田。少し下がった川西から縦パスを受けると、DFの裏へ飛び出し完全にGKと一対一。これも落ち着いて決め、2-0。大院大は完全に守備が崩壊。DFラインをコントロール出来ず揺さぶられる。

後半に入り59分、川西がDF⑤藤春廣輝のロングフィードをワンタッチでゴールに押し込み、大体大がリードを広げる。これまで逆転勝ちを収めてきた大院大も「3点目が痛かった」と、藤原義三監督。試合終了間際に1点を返すにとどまり、大体大が実に6試合ぶりの勝利を決めた。大体大は次節へ望みをつなぐ貴重な一勝で熾烈な残留戦線に生き残った。(文：フリーライター 久住 真穂)

関西学院大学 vs 関西大学

これがライバル校の宿命なのだろうか。2年連続、インカレ出場争いを関関が演じている。ここ2年の対戦成績は、関西大が2勝1分とリード。今年もまた勝ち点差2で優勝争いも演じている両チームの対戦は、「絶対に勝ちたい」強い気持ちがあふれ合う熱戦となった。

前半は圧倒的に関西大のペース。連動した動きで高いボール保有率を保ち、ほとんど関学大へボールを持たせなかった。関西大は得点王を狙うFW⑰金園英学がゴールを狙うも、関学大の守備陣がそれを許さない。守護神・GK①長井健輔、顔を骨折し試合出場も危ぶまれたゲームキャプテンDF④志田野雄一郎、DF⑤飯田洋介など4回生が中心となりチームを牽引した。そして、チャンスは訪れる。後半、徐々にセカンドボールを拾い出した関学大は、右サイドに張ったMF⑱阿部浩之が関西大DFを引き連れながらもクロスを挙げるとそれに反応したのはFW⑩原田雅史。この値千金の1点でゲームは決まった。

個人能力は関西大の方が上だろう。だが、チーム力というのは改めて技術だけではないということが分かる試合だった。熱き主将をはじめ、選手、スタッフ、応援の部員それぞれが大粒の涙を流し、勝利をかみ締めていた関学大。チーム一丸となって戦い、実に2年半ぶりに公式戦で伝統の一戦を制し、首位へ振り返った。

(文：フリーライター 久住 真穂)

関学大 関西大
1 - 0

■11月15日(日) 14:00 kick off
@ 三木総合防災公園陸上競技場

◆得点(アシスト)◆
関学大 59分 11 原田 雅史 (19 阿部 浩之)